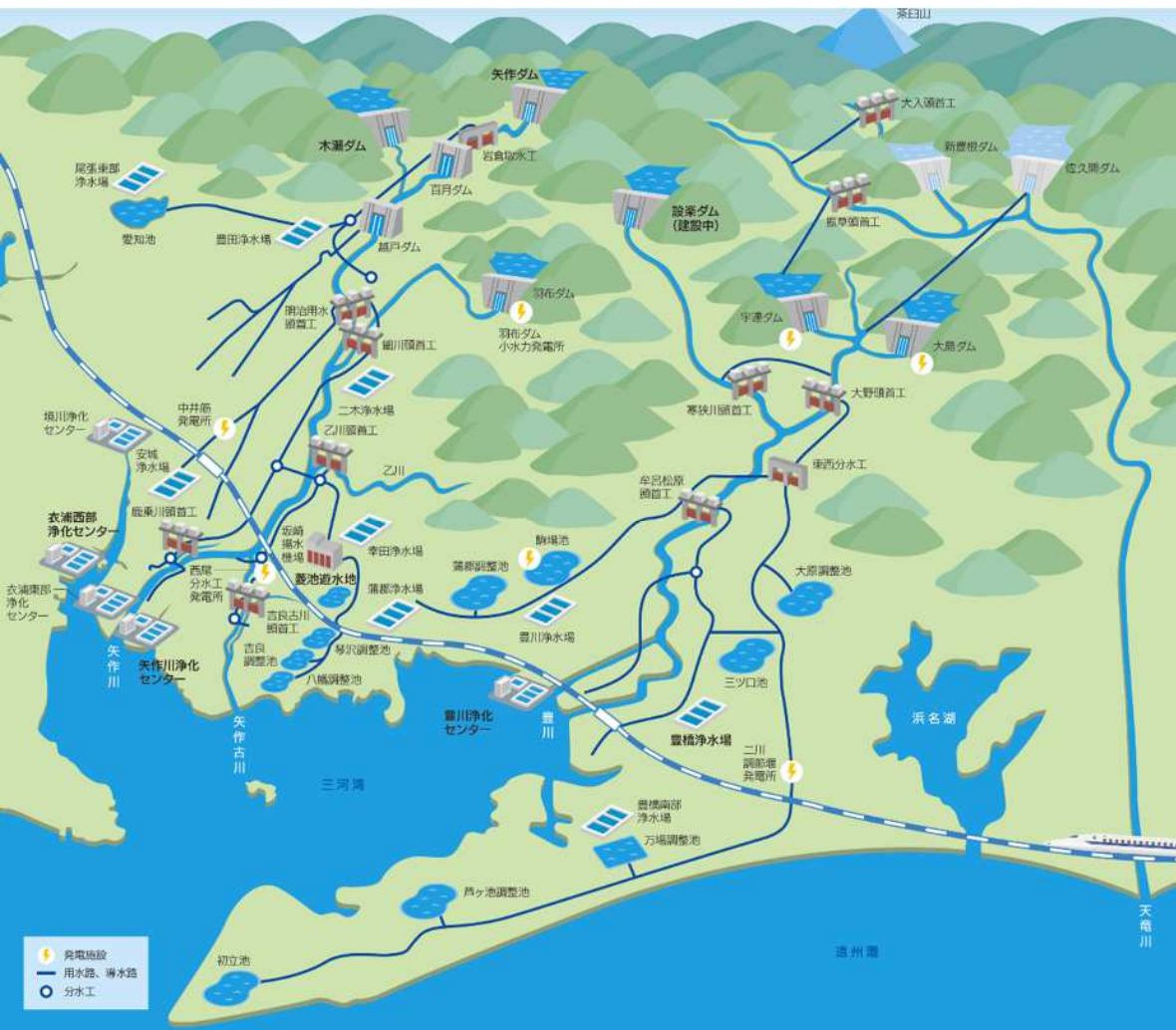


## 東三河地域の施策の全体像



矢作川・豊川CNプロジェクト

# 東三河地域の特性



- ・豊かな森林
- ・設楽ダム(建設中)、豊川用水など多くの水インフラ施設
- ・バイオマス発電所が西三河地域よりも多く立地  
⇒水循環をキーワードとしたCNに向け、

様々な取組が可能な地域

	矢作川(西三河)	豊川(東三河)
県内面積 (森林面積)	1,863km <sup>2</sup> (903km <sup>2</sup> )	1,724km <sup>2</sup> (1,091km <sup>2</sup> )
人口	約182万人	約75万人
木材生産量	約65,800m <sup>3</sup>	約87,800m <sup>3</sup>
ダム	13施設	12施設
砂防堰堤	564か所	410か所
水力発電所	32施設	10施設
バイオマス 発電所	1施設	5施設
農業用水	矢作川用水、矢作川総合用水、明治用水、枝下用水	豊川用水、牟呂用水、松原用水
ため池	454か所	438か所
浄水場 下水処理場 (県)	豊田浄水場 幸田浄水場 安城浄水場 矢作川浄化センター 衣浦東部浄化センター 境川浄化センター 衣浦西部浄化センター	豊橋浄水場 豊橋南部浄水場 豊川浄水場 蒲郡浄水場 豊川浄化センター

## 対象は東三河地域の全域

- ・豊川流域 (豊橋市、豊川市、新城市、設楽町)
- ・豊川水源域 (東栄町、豊根村)
- ・豊川利水域 (田原市、蒲郡市)

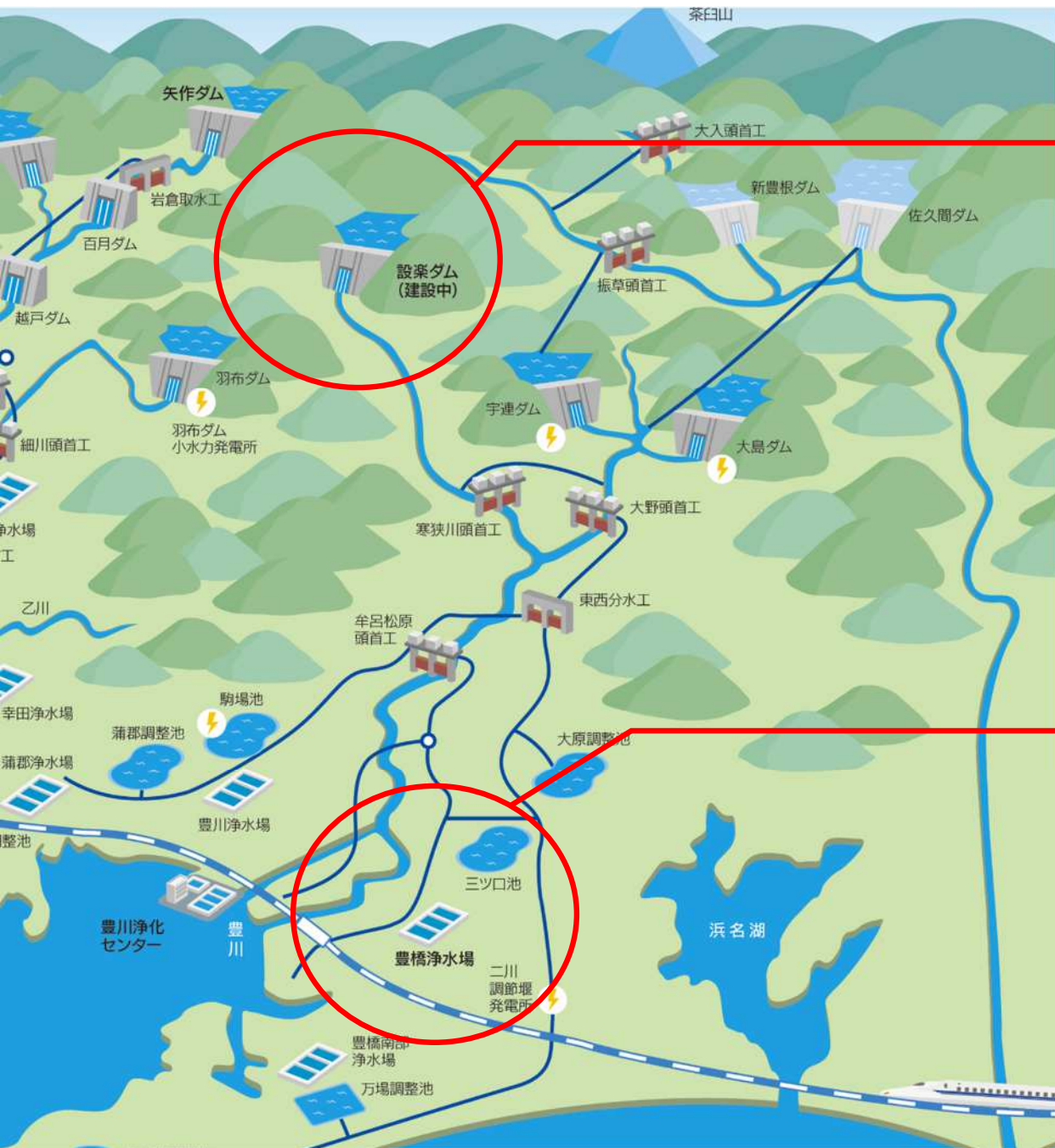
# 矢作川・豊川CNプロジェクトの施策体系

## 三河全域で取り組むに当たっての施策体系

1.再生可能エネルギーの創出	1-1.既存水力発電の増強
	1-2.水インフラ空間における水力発電施設の設置
	1-3.温度差エネルギーの活用(新)
	1-4.水インフラ空間における太陽光発電施設の設置
	1-5.バイオマス活用の推進
2.エネルギーの省力化	2-1.水道施設の再編及び汚水処理の統廃合
	2-2.新設時や機器更新時における最新技術の導入
	2-3.温度差エネルギーの活用(新)
	2-4.その他
3.CO <sub>2</sub> 吸収量の維持・拡大	3-1.森林・緑地の保全
	3-2.循環型林業の推進及び木材利用の促進
4.新技術・新システム	4-1.上下水道の連携
	4-2.水循環マネジメントによる水利用の最適化
	4-3.建設工事におけるCO <sub>2</sub> 排出量の削減
	4-4.官民によるCNに向けた動きとの連携(新)
	4-5.その他



# 東三河地域における取組例



## 設楽ダム(建設中)

建設中の設楽ダムでは、供用後のみならず、建設時もCNに配慮

- ・ダム放流水を利用した水力発電
- ・下流河川の流況の改善による水力エネルギーのポテンシャル向上
- ・建設時に発生する伐採木のバイオマス活用

## 豊橋浄水場再整備

浄水場の大規模更新の先駆けとしてCNに最大限配慮した次世代型の浄水場を整備

- ・小水力発電、太陽光発電、水素活用などを推進
- ・PFIにより民間の技術力を活用
- ・豊橋市の小鷹野浄水場と連携推進

# CO<sub>2</sub>削減・吸収ポテンシャル

全体像を踏まえ、CO<sub>2</sub>削減・吸収ポテンシャルについて、定量化を試みた。

(約 t-CO<sub>2</sub>/年)

	施策	西三河地域(矢作川)	東三河地域(豊川)	計	
1.再生可能エネルギーの創出	1-1. 既存水力発電の増強	2,900	400	3,300	削減
	1-2. 水インフラ空間における水力発電施設の設置	1,500	500	2,000	
	1-3. 温度差エネルギーの活用	—	—	—	
	1-4. 水インフラ空間における太陽光発電施設の設置	15,100	15,500	30,600	
	1-5. バイオマス活用の推進	100	200	300	
	<b>計</b>	<b>19,600</b>	<b>16,600</b>	<b>36,200</b>	
2.エネルギーの省力化	2-1. 水道施設の再編及び汚水処理の統廃合	17,200	1,400	18,600	削減
	2-2. 新設時や機器更新時における最新技術の活用	7,600	3,000	10,600	
	2-3. 温度差エネルギーの活用	—	—	—	
	2-4. その他	100	300	400	
	<b>計</b>	<b>24,900</b>	<b>4,700</b>	<b>29,600</b>	
3.CO <sub>2</sub> 吸収量の維持・拡大	3-1. 森林・緑地の保全	161,700	234,700	396,400	吸収
	3-2. 循環型林業の推進及び木材利用の促進	—	—	—	
	<b>計</b>	<b>161,700</b>	<b>234,700</b>	<b>396,400</b>	
4.新技術・新システム	4-1. 上下水道の連携 ～4-5. その他	—	—	—	

※設置する施設規模や水利権など個別条件について詳細に検討したものではなく、現状を踏まえた一定の仮定の基で算出した参考値である。

予算や実行計画に基づいて算出した目標値ではない。

※削減量では建設や撤去、運搬等から排出されるCO<sub>2</sub>は考慮していない。また、電力・燃料換算が可能なものを対象としている。

※吸収量では伐採や運搬等から排出されるCO<sub>2</sub>は考慮していない。

※施策体系や試算方法の見直しに合わせ、西三河地域(矢作川)のポテンシャルを再計算をしている。